

## 活動報告

〔1日目 8月21日(月曜日)〕

時間	内容
7:30	福祉交流センター集合
7:40	出発式
8:00	取手市出発
12:00	みなかみ町到着後、昼食
13:30	『中野の森』での植林体験
16:00	植林体験の振り返りとみなかみ町の取り組み
17:00	入浴
18:00	夕食
19:15	熊撃ち猟師 『高柳盛芳』さんの講話
21:30	就寝

### 〔出発式〕

午前7時30分、取手市福祉交流センターに29名の子どもたちが集合し、出発式が行われました。中村市長は「取手市とみなかみ町の違いや繋がりを学び、二つのまちをより良くしていくために一人ひとり何ができるのかを考えてほしい」と挨拶。今回のツアーの学習目標を子どもたちと共有しました。閉式後、わくわくとした表情で大型の観光バスに乗り込み、3日間の『夏休み探究ツアーinみなかみ』がスタートしました。



## 〔取手市からみなかみ町へ〕

バスに揺られること、約4時間。のっぺりとした平たんな土地に建物が建ち並び見慣れた街のたたずまいから、みなかみ町の自然豊かな山林に囲まれ、道の両わきの緑が次々と移り変わる車窓からの風景に子どもたちは目を輝かせていました。これから始まる普段の生活では味わえない様々なプログラムへの期待に胸を膨らませている様子でした。

## 〔みなかみ町に到着〕

宿泊先のホテル『千の谷』でツアーコーディネーターの福田さんと合流。昼食をいただいたあと、3日間お世話になるホテルの施設や客室を案内していただきました。



## 〔植林体験〕

みなかみ町での最初の体験活動として、『中野の森』と呼ばれる牧場跡地に植林を行いました。『中野の森』では、平成26年度から東京都中野区がみなかみ町と連携して森林整備を行っています。



植林体験ではまず、みなかみ町役場職員の小野さんから、「苗木をただ植えるだけではなく、森林の役割や働きを理解したうえで一人ひとりが目的を持って植林体験に取り組むことが大切」と話があり、その後、高さ1.5mほどのコナラの苗木と小型のシャベルを携え、体験活動が始まりました。子どもたちは草の根が張った固い土にシャベルで穴

を掘り、約1時間かけて100本もの苗木を植えました。初めての植林体験に苦戦する子どもたちも多く、複数人で協力し合って1本の苗木を丁寧に植える姿も見られました。植林活動を終えた子どもたちからは「木が大きくなったらまた来たいな」といった、苗木の成長を楽しむ声が聞こえてきました。



#### 〔植林活動の振り返りとみなかみ町の取り組み〕

『中野の森』をあとにした子どもたちはホテルに戻り、植林体験の目的と意義について振り返りの時間を設け、探究的な学びを促しました。



振り返りでツアーコーディネーターの福田さんは「どうして『中野の森』に苗木を植えてもらったのかわかるかな」と子どもたちに呼びかけました。更に「人が一度手を入れた自然は、一生人が関わり続けないと守ることができない」と続けました。今回、植林を行

った『中野の森』も今後も見守っていかなければならないことを知った子どもたち。今回の植林体験を通して、自然と自分たちとの関わりについて深く考えるきっかけとなりました。

続いて、みなかみ町の環境を守る活動やSDGsの取り組みについて、みなかみ町役場の小野さんからお話を聞かせていただきました。ニュースで見聞きしていたダム貯水不足が取手市を流れる利根川上流のダムでも起きていることや、取手市とみなかみ町は利根川で繋がっていることから、利根川の上流にあるみなかみ町で水を大切にすることは取手市で使われる水を守ることに繋がっていることについて説明を受けました。子どもたちは、普段使っている水の大切さを再認識するとともに、みなかみ町をより身近に感じる事ができた様子でした。



### 【熊撃ち猟師の講話】

講師の高柳盛芳(たかやなぎもりよし)さんは、関東最後の秘境である奥利根でわずかな痕跡を頼りに行動を推理し、熊を1対1で追い詰める『しのび猟』を約45年続けています。そのかわら、町内や周辺の湖で釣りや自然のガイド、自然保護の活動も行っています。



「森のものは半分殺してちょうどいい」高柳さんの衝撃的な一言に、子どもたちは話に興味津々という表情をしていました。高柳さんは「昔から人は山の恵みを半分いただいてきた。そうすることで生物、自然環境といった生態系が崩れることなく循環してき

た」と続け、生態系の多様性やバランスを維持し続けることの大切さと難しさを伝えました。また高柳さんは子どもたちの普段の生活ではなかなかお目にかかることのない、シカの頭蓋骨やテンの毛皮、狩猟用ナイフなどをテーブルの上に広げ、子どもたちに実際に触れさせてくれました。子どもたちは、野生の動物と植物はお互いに繋がりがあって、森を守るためには鳥獣の計画的な捕獲や狩猟も必要であることなど、生物多様性の保全についても学びを深めました。



〔2日目 8月22日(火曜日)〕

時間	内容
6:30	起床
7:00	朝食
9:00	谷川岳インフォメーションセンターでの環境学習
9:30	谷川岳の散策
11:00	特定外来生物の除去作業
12:00	昼食
13:00	森の香りづくり体験
17:00	入浴
18:00	夕食
19:30	たき火体験
22:00	就寝

〔みなかみ町の環境学習〕

2日目は谷川岳インフォメーションセンターから活動をスタート。同センターは、みなかみ町の自然環境の楽しく安全な利用と保護を促進するために開設され、地域の地形や動植物などについての展示や資料が多く揃っています。子どもたちは自然解説ガイドから展示物について説明を受け、その後、現地で採取できる植物から抽出したハーブウォーターの香りを嗅いでみたり、熊の剥製に触れてみたりと五感を活用して谷川岳を取り巻く自然環境などを学んでいました。

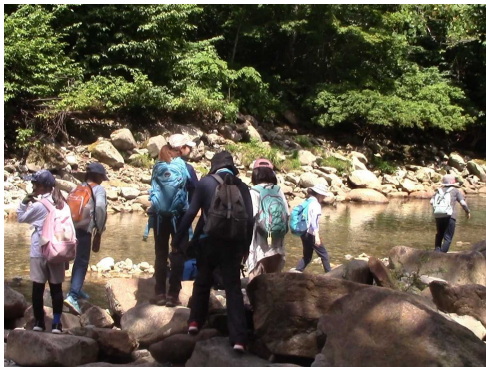
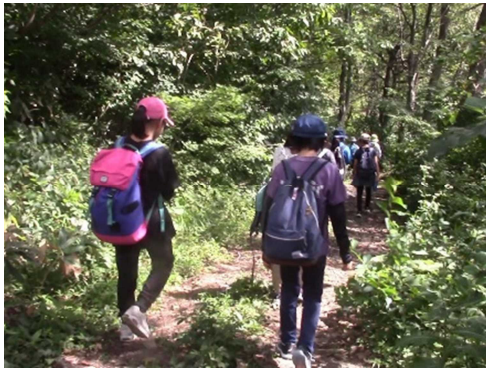




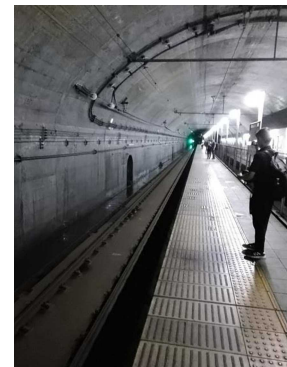
### 〔谷川岳の散策〕

谷川岳インフォメーションセンターでの学習のあとは、谷川岳の麓でフィールドワークを行いました。散策している最中、道の端々に鮮やかな黄色の花を咲かせている植物が多く分布されていることに多くの子どもたちが気づきました。その植物は『オオハンゴンソウ』と呼ばれる特定外来生物で谷川岳周辺に広く分布し、谷川岳の在来植物に影響を及ぼしていることを伺いました。

取手市とみなかみ町の繋がりの一つである利根川の上流に足を運び、草むらや道ばただけではなく、川辺にもオオハンゴンソウが繁殖していることを目の当たりにした子どもたちに、自然解説ガイドが「利根川を通じてみんなの住んでいる取手市にオオハンゴンソウの種子が流れていってしまったらどうなるかな」と想像を促したうえで「特定外来生物によって取手市の在来種の存続までも脅かされてしまう状況になってしまうかも」と危機感を伝えていました。また、夏の利根川の水温はみなかみ町で約15℃ですが、取手市に流れてくるまでに約10℃ほど水温が上昇するという話を聞き、子どもたちは驚いた様子でした。



日本一のもぐら駅と呼ばれ『関東の駅百選』にも認定されている土合(どあい)駅にも立ち寄りました。土合駅の下りホームは地下70mの場所にあり、子どもたちは約30分かけて462段の階段を往復しました。



**〔特定外来生物の除去作業〕**

外来生物法によって特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウの除去を行いました。明治中期に観賞用として人の手により北アメリカから日本に輸入されたオオハンゴンソウは、繁殖力が非常に高く、1本の花から1600個の種が生まれると言われています。そのため、引き抜いたあとは土の上に種を撒いてしまわないよう慎重に袋の中に入れることと自然解説ガイドから注意がありました。





猛暑の中、約1時間の除去作業を終えた子どもたちは、先ほどまでオオハンゴンソウが繁茂していた周辺を見渡し、「きれいに咲いていた花を除去するのは可哀想だったけど在来の植物を守るために除去できてよかった」と全員満足げな表情を浮かべていました。また、一部の子もからは「自然を守るために自分たちにできることをもっと探してみたい」とさっそくこれからの取り組みについて考える声も挙がっていました。

### 【森の香りづくり体験】

2日目最後の体験活動では、谷川岳の散策中に採取した植物を利用して、森の香りづくり体験を行いました。初めに、みなかみ町でハーブウォーター作りをしている山口さんから、植物を蒸留し、芳香蒸留水(ハーブウォーター)を抽出する方法についての説明を伺い、子どもたちはドクダミやバラから抽出したハーブウォーターの香りを嗅いで「こんなにいい香りが作れるかな」とこれから行う蒸留体験が待ちきれない様子でした。



植物の花、茎、葉、根のどの部分を使って蒸留を行うのか、またその割合などについて班ごとに分かれ話し合いました。子どもたちは「部位によって香りの違いが出るのかな」「どんな香りになるのかな」と蒸留器を見つめながら『森の香り』の完成を待ちました。



蒸留をしている間に、山口さんは「特定外来生物や雑草などの植物も一つの命だよね。何かに活用してあげて不要とされているものでもその価値をみつけてあげられないかな」と子どもたちへ問いかけました。その問いかけに子どもたちは「防犯用の匂いスプレーにする」「小動物が近づかないように植林をした場所に使う」など思い思いに植物を再利用するための独創的なアイデアやこれまでの活動に結びつけたアイデアを出していました。

蒸留が終わり、グループごとのオリジナルの『森の香り』が完成。子どもたちは自分のグループや他のグループの『森の香り』を嗅いで「大きな草のベッドで寝ている感じの香りがする」「甘い香りがする」「鼻がツンとする」など一人ひとりが感じた表現で、香りの感想を共有しました。

#### 【たき火体験】

本来であればホテル近くの広場で間伐材を利用したたき火を行う予定でしたが、雨天のため急ぎょ室内で卓上にキャンドルをともしました。子どもたちと引率職員でキャンドルを囲み、今回のツアーを通して学んだことの振り返りや自分が住んでみたいまちのこと、将来の夢などについて語りました。



〔3日目 8月23日(水曜日)〕

時間	内容
6:30	起床
7:00	朝食
9:00	赤谷湖でのボートアドベンチャー
12:00	昼食
13:00	みなかみ町出発
17:00	取手市役所到着、解散

〔赤谷湖でのボートアドベンチャー〕

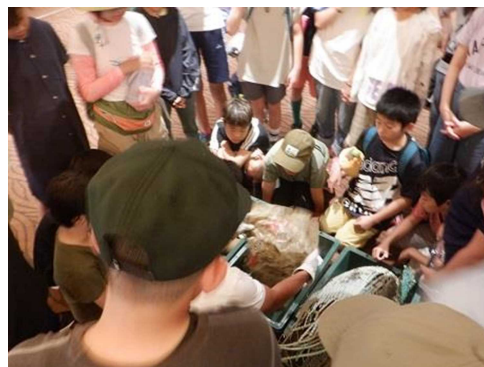
最終日の3日目。ツアー最後のプログラムは子どもたちが一番楽しみにしていた赤谷湖(あかやこ)でのレイクラフティングを行いました。赤谷湖は、利根川の支流である赤谷川によって形成され、みなかみ町内で利根川に合流し、下流の取手市に流れていきます。

レイクラフティングインストラクターの鵜野田(うのだ)さんは、「赤谷湖をきれいにすると、それにつながる取手市を流れる利根川がきれいになるんだよ。湖に浮かんでいるごみを一つでも多く拾って湖をきれいにしよう。」と子どもたちに呼びかけました。レイクラフティングでは、森が育ててくれた水資源の大切さを水かけやボートからの飛び込み、ボートレースなど五感を使って学ぶことができました。



### 〔ツアーの振り返り〕

ボートアドベンチャーを終え、ホテル「千の谷」に戻ってきた子どもたち。ツアーコーディネーターの福田さんからツアー3日間の振り返りの話がありました。福田さんは、実際に子どもたちが湖で拾ったごみや、昔の赤谷湖の写真などを見せながら「今回の体験を踏まえて一人ひとりが環境のためにできることを考え、行動してみよう」と子どもたちにこれからの活動を促したうえで「今回のツアーでみんなが学んだことをぜひ周りの友達や大人たちに広めてほしい。みんなのその行動が、周りの人たちの環境に対する意識を高めるきっかけになる」と呼びかけていました。



### 〔ツアーの終わり〕

午後5時頃に取手市役所に到着し、子どもたちは2泊3日の行程を終えました。植林体験や自然観察など様々なプログラムを通して、みなかみ町の自然と地域の人と触れ合うことができた29名の子どもたち。子どもたちを出迎えた市長は「今回のツアーで感じたこと、考えたこと、疑問に思ったことをぜひ色々な人を共有して、活動の輪を広げていってほしい」とツアーを総括しました。

